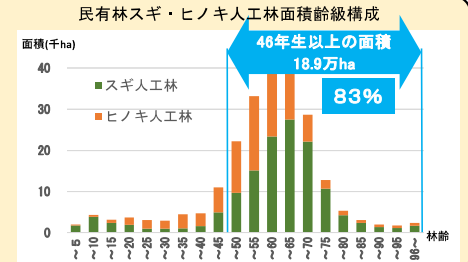


- 林業従事者数が減少傾向にある中、「くまもと林業大学校」を核とした担い手の確保・育成や、新たな技術を活用した生産性・安全性の向上により、若者等にとって魅力ある林業現場に転換していく必要。
- 本県の民有林スギ・ヒノキ人工林の約8割が本格的な利用期を迎える中、今こそ「伐って、使って、植えて、育てる」森林資源の循環利用を確立し、持続可能な森林経営と豊かな森林づくりを目指す必要。
- 令和2年7月豪雨災害以降も梅雨前線や台風による山地災害が発生しており、治山事業による復旧に取り組むとともに、事前防災対策や林地保全に配慮した森づくり等を通じた「緑の流域治水」を推進する必要。
- 2050年カーボンニュートラル、SDGsの達成に向け、森林が生み出す新たな価値を最大化する必要。



1 未来の林業を担う人財の確保・育成 ～山の人財づくり・林業DXの推進～

①くまもと林業大学校を核とした担い手の確保・育成

「森林環境譲与税」等を活用し、「くまもと林業大学校」の取組み等を通じた林業従事者の確保・育成や就業環境改善等への支援を行うとともに、同大学校の機能拡充に向けた検討を進める。

②林業の省力化・軽労化に向けた取組みの推進

五木村の県有林において、成長に優れ、花粉の少ない品種の苗木や低コスト造林技術の有効性についての実証調査及び普及促進のための研修を行う。

また、森林資源調査や林道災害調査等の業務効率化・軽労化のため、ドローン等の新技術導入に取り組む。

③原木しいたけ生産DXの実証及びガイドライン作成

これまでの実証事業で確立した自動散水等の栽培技術を普及するためのガイドラインを作成する。

また、原木しいたけ生産において、ICTタグを活用した在庫管理技術や温度センサー等を使ったしいたけ乾燥工程自動化の実証を行う。

■くまもと林業大学校入校式



■県有林に植栽した特定母樹（植栽4年）



■環境センサーと自動散水施設

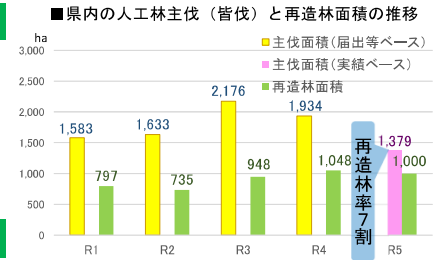


2 森林資源の循環利用の推進

～「伐って、使って、植えて、育てる」循環型林業の構築～

①再造林面積の更なる拡大

「国庫補助事業」や県の「水とみどりの森づくり税」、市町村における「森林環境譲与税」を活用した再造林や下刈りへの支援、成長に優れ、花粉の少ない品種の苗木の供給拡大に向けた生産施設や採種園の整備への支援等に取り組む。



②公共・民間建築物における木材利用の拡大

品質や性能が確保された木材製品の供給体制を整備するため、アドバイザー派遣等により製材工場等のJAS認証取得を支援するとともに、中大規模木造建築物の設計を担う建築士を育成・支援するほか、建築物木材利用促進協定（※）等を活用して民間建築物の木造化を促進する。（※）これまでに県内で7件締結

■木材利用促進協定に基づき建築された民間企業の事務所（熊本市）



③林業生産性向上に向けた基盤整備の推進

幹線となる林道の開設・改良と併せ、支線となる森林作業道を組み合わせた路網整備を推進し、林業生産性の向上を目指す。

3 県民の生命・財産を守る「緑の流域治水」の推進 ～令和2年7月豪雨災害からの創造的復興～

①豪雨災害からの復旧・流域保全総合治山事業の推進

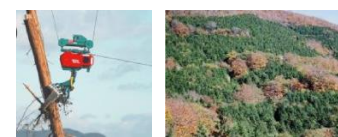
治山激甚災害対策特別緊急事業等による令和2年7月豪雨災害からの復旧や、球磨川流域3地区において「流域保全総合治山事業」（※）等に取り組むとともに、住民の避難行動支援等の事前防災対策に取り組み、ハード及びソフト対策を総合的に推進する。

（※）森林整備と治山ダム等による土砂及び流木の流出対策を面的に行う事業

■流域保全総合治山事業実施地区



■最新鋭の架線集材 ■針広混交林



②災害のリスクを低減させる森林づくりの推進

架線集材等の林地保全に配慮した林業への支援を行うとともに、積極的に保全を図るエリアの設定基準や、針広混交林へ誘導するための施業指針の普及に取り組む。

4 森林が生み出す新たな価値の最大化

～2050年カーボンニュートラル、SDGsの達成に向けた機運醸成～

①森林由来J-クレジットの創出・販売を通じた森林整備の推進

森林整備によるCO₂吸収量をクレジット化する「J-クレジット制度」を周知するとともに、クレジットの創出に取り組む森林所有者等に対し、申請手続き等を支援する（※）。

（※）県の支援により、これまでに4者が計9,087t-CO₂のクレジットを創出・販売開始

■E-BIKE森林ツアー（五木村）



②森林サービス産業の展開

令和2年7月豪雨で被災した球磨川流域を中心に、森林空間を活用したサウナやマウンテンバイク・トレイル等の森林サービス産業を展開し、新たな産業・雇用創出に取り組む。

③企業等による協働の森づくりの推進

企業等と森林所有者との森林整備協定の締結を支援（※）し、企業等が実施した森林整備活動によるCO₂吸収量を認証することにより、森林の公益的機能の理解醸成に取り組む。

※R6年度協定実績4件

■J-クレジット協定締結式



これまでの取組みと成果（R2～R5）

- 令和2年7月豪雨からの復旧・復興、新型コロナウイルス感染症による影響の最小化
- 木材生産量の増加、木材産出額全国上位を維持（産出額全国7位）
- 集約化による効率的な森林経営面積の増加
- スマート林業技術導入などを通じた林業生産性向上
- 循環利用のための再造林の着実な実施
- 特用林産物の振興（乾しいたけ 全国3位、竹材生産 全国2位）
- くまもと林業大学校の運営による即戦力となる林業担い手の育成
- マーケットインの供給体制構築（くまもと県産木材SCM協同組合）
- 木材利用促進協定の活用による民間建築物への木材利用の促進
- 国土強靱化の推進（治山、林道、森林整備の着実な推進）

情勢の変化等

- 【国】
- 国の方針（R3～R7）
 - ・森林・林業基本計画
 - ・都市の木造化推進法（R3.10）
 - ・花粉症に関する関係閣僚会議（R5.5）
 - ・森林環境譲与税を活用した取組の進展、森林経営管理制度の見直し
- 【県】
- くまもと新時代基本方針、
 - くまもと新時代共創総合戦略

現状・課題

- 川上
- ・適切な森林整備の推進
 - ・主伐の増加と再造林
- 川下
- ・住宅着工戸数の低下、新たな木材利用
 - ・林業従事者の減少、高齢化
- 人
- ・人口減少社会への対応、DX技術の実装
- 暮らし
- ・山地災害の激甚化、頻発化
 - ・森林病虫獣害対策、花粉症による社会問題
- 村
- ・特用林産物の生産振興と山村地域の維持

新計画の
方向性

森林資源の適正な管理、利用や、くまもと林業大学校を核とした多様な林業担い手の育成、スマート林業・DX技術の実装による生産性及び競争力の強化、建築物の木造化・木質化の促進、県民の期待に応える森林づくり、特用林産物の振興などにより、2050年カーボンニュートラルに向けた本県の林業・木材産業等のグリーン成長の実現を目指す。

計画の構成

1 未来の林業を担う人材の確保・育成

- ① 林業を支える“山の人材”づくり
 - ・多様な担い手の確保・育成
 - ・森林組合の役割の強化と林業事業体の育成強化
 - ・自伐林家や林業研究グループ、指導林家等への支援
- ② 林業DXによる林業生産性及び安全性の向上
 - ・スマート林業技術の導入
 - ・機械化等の推進
 - ・高度な知識と技能を有する技術者の育成

林業大学校の機能拡充

【森林・林業・木材産業の将来の目指す姿に向けた取組み】



2 森林資源の適正な管理及び利用

- ① 森林の経営管理の推進
 - ・森林経営管理制度等を活用した面的なまとまりのある森林管理の推進
 - ・効率的な森林施業の基盤となる森林関連情報の充実及び高度利用の推進
 - ・効率的な森林施業のための基盤の整備
 - ・木材の安定供給に向けた森林経営の推進
- ② 適正な伐採と循環利用のための再造林の着実な実施
 - ・再造林の推進
 - ・造林コストの低減
 - ・苗木の安定供給と花粉発生源対策
 - ・伐採及び伐採後の造林の届出制度等の適正な運用
- ③ 森林病虫獣害対策等の推進
 - ・シカ被害対策の強化
 - ・森林病害虫対策の推進
 - ・林野火災の防止
 - ・森林保険制度の普及
- ④ 森林吸収量の確保に向けた適正な森林整備
 - ・森林吸収源対策としての間伐等の推進
 - ・森林整備の推進に向けた市町村への支援強化
- ⑤ 森林の持つ多面的機能を支える研究・技術開発と林業普及活動の展開
 - ・試験研究と技術開発の推進
 - ・林業普及活動の推進

3 県産木材の利活用の最大化

- ① 脱炭素社会の実現に向けた木材利用拡大の推進
 - ・住宅分野での県産木材の利用拡大
 - ・非住宅分野での木造化・木質化の推進
 - ・木材輸出の促進
 - ・木質バイオマスへの利用促進
- ② 木材産業の競争力強化
 - ・品質・性能の確かな木製品の安定供給体制の構築
- ③ 県民に対する木材利用の理解醸成
 - ・くまもと県産木材利用の普及啓発
 - ・木育の推進

建築物木材利用促進協定
制度の活用

4 県民の期待に応える多様で健全な森林づくり

- ① 公益的機能の発揮に向けた適正な森林管理の推進
 - ・公益的機能を高度に発揮するための森林づくり
 - ・林地保全に配慮した林業の推進
- ② 安全・安心な森林づくりの推進
 - ・災害に強い森づくりに資する治山対策の推進
 - ・防災・減災対策の推進
 - ・保安林の適切な管理
 - ・林地の適切な利用確保
- ③ 県民や企業参加の森林づくりの推進
 - ・多様な主体による森林づくり活動への支援
 - ・県民の理解の促進
 - ・森林環境教育の推進

ハード・ソフト両面の推進による「流域治水」の実現

森林由来のJ-クレジット創出

5 新たな山村価値の創造による山村地域の維持・活性化

- ① 森林空間の総合的な利用
 - ・森林空間利用の推進
 - ・里山林の活用と整備
- ② 特用林産物の生産振興
 - ・生産体制・加工施設等の整備とDXの推進
 - ・販路拡大に向けた取組み

森林サービス産業の創出